

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)2月5日 No. 1115

目次

チェコ化学工業の現状と課題	清水 正俊 1
輸出関税に関するロシア政府決定	8
CIS諸国通貨の最新為替レート	12

チェコ化学工業の現状と課題

はじめに

旧チェコスロバキアに対する日本からの主要輸出品目の一つは化学プラントであったが、体制転換および分離後のチェコへの日本からの化学プラントの輸出は途絶えている。また、日本とチェコの化学品貿易は、輸出入とも、極めて少ない(日本の通関統計によると、日本からチェコへの化学品輸出は1997年892万5,000ドル、日本の対チェコ輸出に占める割合は4.1%:輸入943万5,000ドル、同じく8%)。

こうした状況が今後も続くのか、あるいは新しい局面が切り開かれる可能性があるのかを探るために、チェコ共和国経済会議所発行『チェコ・ビジネス・アンド・トレード』誌1998年8月号および9月号に掲載されたブランカ・クサンドロバー・チェコ工業・商業省工業第二部長の論文により、チェコの化学工業の現状と課題を紹介する。

1. 化学工業がチェコ経済に占める位置

まず特記すべきことは、チェコの化学工業は、1990年に開始した計画経済から市場への体制転換と1993年の連邦解体に伴うチェコ、スロバキア両共和国の分離の影響を比較的受けず、他の製造業よりも速いテンポで成長しているということである。チェコの化学工業は、チェコの分類によると、「石油精製・炭素化合物製造工業」(BCEA-23)、「化学・医薬品工業」